

園長だより

「良いチームをつくる」

子ども達の主体的な生活は

保育士の主体性から

保育士の仕事、業務は多岐にわたる、疲労感や負担感は、やはり全産業中、群を抜いていると言われる。世の中、働き方改革という流れは出てきているものの、保育、教育（福祉）に従事しているものには程遠い話かもしれない。

保育園での仕事は特殊性があるが故、各事業所（保育園）ごとに働きやすい気風を整えていくことが必須であると感じる。

働きやすい職場とは、「何ぞや」と問うてみると人それぞれ感じ方は異なるが職場での人間関係が思い浮かぶことでしょうか。大変な仕事と思うことも同じ志をもった同僚がいるなら乗り越えられることも多々ある。

互いが助け合い、認め合い、支え合い、保育のあれこれに知恵を出し合い、取り組んでいく、当たり前のことですがなかなかできるものではありません。

子ども達への育ちの姿に願いがある。幼いながらもそれぞれの主体性を持ち合わせてほしいと願う。自分で決めて、自分で選択する、行動してみる。時には同じ志の仲間と協力して取り組む、できるだけ自分（自分たち）で生活してほしいと願う。

そんな子ども像を願うからには関わる大人

が子ども達と同じように主体的に仕事に取り組んでいなくてはならない。

理想論かもしれないが自分で考えたことを実現できる。同僚（仲間）と考えたことが実現できる職場でありたいと思う、保育を営む以上、保育士としての倫理や職場の規律など様々な決まりや約束事はありますが、子ども達と同じようにそれぞれが主体にならない。そんな保育者のいる職場なら子どもたちの育ちもより良いものになると思っています。

保育に従事している者にとっては永遠のテーマであり、自己課題、集団課題でもあります。

園内研修を通じて

保育園では園内において研修会を行っています。テーマを決め、保育の資質向上の機会を作っています。

今年度も研修を担当する職員が中心になり協議し1年間の方向性を出して、学びたい視点を明らかにし月1回の研修を始めました。

今年は少々、趣を変えて、お互いの感情を知る、共有する、共感することから保育の悩み、保育の課題などをみんなの事としてとらえ、保育の中で実際のアクションにつなげていけるようなものを考えています。

いきいきとした良い職場づくりを実現するための組織力を高めるコミュニケーションの在り方や現場を活性化する取り組みになることに期待しています。

つい先日、行った研修は職員を4つのグループに分け、進行役、タイムキーパーなどの役割分担を決めた後に「働く中で出てくる悩み、保育者が感じる不安、園内で起きている課題、問題」等思いつくままに付箋に記入し模造紙に貼りながら問題の可視化、分別を行い、討議をすすめるというものです。

各グループで悩み、課題、問題を討議し改善や今後のアクションの源を共有します。

その後グループごとに発表し最後に参加者全員が感想を出し合い終了します。

若年層も中堅もベテランもありません。参加者は同じ地点で、それぞれが感じ、思うことを伝え合います。黙っている人はいません。

「話したい」「聞いてあげたい」という雰囲気があります。



（保育士1年目、Y先生の発表）

互いの感情を知り、共有することから

お互いを知る、互いを見ている、つまずきや失敗も誰かが助けてくれる、そんな気持ちが安心感をつくりだします。

そんな関係性の土台があれば「子どもたちのために」という意識や責任感をもつことにつながります。

頼れる人がいる環境

保育の仕事は一日中多忙である。

子どもの生活では思い描く計画がぴったりとその通りに行われることは少ない。計画はもっているが子ども達のその日の状況に応じて瞬時の判断、活動の微調整、職員間の連絡調整など、ほっと一息つく間もないのが現状です。

話し合いなどの時間の捻出も緻密な予定を立てているものの上手に時間を使えていないことに課題があります。みんな保育士は悪戦苦闘、四苦八苦しなから時間を捻出しているのが現状です。

相談事ひとつ、いつ、どこで、どのタイミングで話をしたらいいのかな？数分で済むことさえ、子ども達の生活に力を注がねばなりませんから話ができないこともあります。

数年前、主任保育士の実態調査が行われました。主任保育士の多忙を極める叫びが満載のものです。多忙な中でも保育の仕事はやりがいがあります。育てがい、喜びがいもあります。でもひとりで様々なことを抱え込むことではありません。互いを知り、支え合い、繋がりを持ち保育することが大切です。

園内研修では知識や技術の獲得のみならず、人間関係やその職場のチーム力を育てることも考え取り組んでいます。新年度が始まったばかり「チームおおぞら」の変化に期待します。研修は座学と討議の他、体のケアを考えドッチボールをする姿もあり、遊び心をわすれない職員を微笑ましく思えました。

（園長 廣部 信隆 18）